

2023

令和5年5月17日

第10号

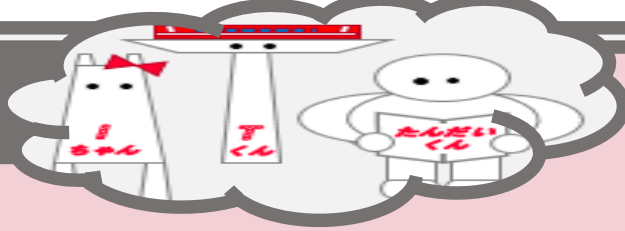
(通算56号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!



1 見方を変え解決できる



本校が参画している「いばらきP-TECH」プログラムの一環で、水戸工業高校（情報技術科三年生）で、ワークショップを実施しました。

このプログラムは、未来のIT人財の育成のために、産学官が連携し行うもので、生徒から研究テーマの設定理由や現状における課題を聴取し、ワークショップを通して生徒の気づきを促し助言するものです。当日の講師は、常陽銀行、IT関連企業、本校の6人が務めました。

担当した本校の日熊啓介講師は「生徒の設定したテーマは、レベルも高く社会に活かせる研究だと感じました」と話していました。



ワークショップの様子



ワークショップの様子

＜参加した生徒の声＞

○菊池大我さん

相談やアドバイスを聞ける機会が欲しいと思った。

○尾澤滉さん

みんなと研究を共有したり、メンターの方からアドバイスを頂き気付いたことがあった。

○久野眺希さん

多くのアドバイス、改善点を研究に活かし、より良いものにしていきたい。

○大曾根陽さん

実現するには苦勞するが、社会貢献はできそう。

○佐藤弘亮さん

文章で相手に分かり易く伝えることの大切さを助言頂きました。

○川面 心さん

自分一人では思い付かなかったが、様々な意見を頂いて、見方を変えて解決できそう。



3 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加えて「社会人基礎力」の向上のために、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

＜記事＞ 日本経済新聞(2023年4月27日)
茨城が首位、地域差大きく

◇要約

●塩野凌久さん(佐和高卒)

新型コロナでの臨時休校によりオンライン教育の導入が広がった。

都道府県別に見ると茨城県が99.7%で首位で、最下位の岩手県との差が17倍もある。

このことから、地域による格差が大きな課題となっている。

●小針向葵さん(日立商高卒)

コロナウイルスが流行し、学校教育にオンライン授業が実施された。

学びを止めないための教育行政の努力が結ばれ、小中学校の7割がオンラインを導入した。

だが、都道府県別にみると大きな地域格差が生まれている。

◇感想

●米柳綾佑さん(佐和高卒)

私は茨城県の臨時休校時のオンライン教育の割合が約100%という事を知って驚きました。

この記事から私達の生活にとってICTの活用が増えたと感じました。

また、感染の影響もありますが地域差があると感じました。

●藤巻日々花さん(佐和高卒)

オンライン教育の導入により、休校時に家にいる時間を有効活用できたり、ICT教育のスキルが向上するのは良いことだと思った。

しかし、オンライン教育の実施率には地域差があり、オンライン教育は、まだ浸透していないと思った。

●塩野凌久さん(佐和高卒)

私はこの記事を見て、情報化社会の中、オンライン教育の普及により生徒がパソコンを使用する機会が増えたのはとても良いと感じました。

また、地域による格差の課題は、早めに対応すべきと感じた。



2 みんなの母校訪問②

県立佐和高等学校からは、多くの卒業生が本校に入学しています。また、創立以来、「君の心に聴け」(The truth is always in your mind)という校訓のもと、学習や部活動などすべての活動に励み実績を上げています。

本年度は、「人間力育成」を目指す野球部は、春季関東地区高校野球茨城県大会において、見事、県ベスト8に輝いています。

山崎浩之校長は「地域に信頼され、一人一人の夢と希望を自己実現して下さい」とエールを頂きました。

県立佐和高等学校



山崎浩之 校長



茨城県立産業技術短期大学校

URL <http://www.ibaraki-it.ac.jp/> E-mail: kyoumu@ibaraki-it.ac.jp

〒311-1131
茨城県水戸市下大野町6342
電話029-269-5500

